

国土学事始め



大石久和さん

国土技術研究センター理事長



青森県の三内丸山遺跡は、

縄文時代に対するイメージを大きく変えた貴重な縄文遺跡です。集落の大きさが示す権力の発生の可能性や遺伝子分析による粟栽培の発見など、縄文人の生活がかなり明らかになりました。この遺跡で、新潟と富山の県境の姫川から産出するヒスイが発見されました。ヒスイはヒスイ谷という山中に産し、川を流れて河

口付近で採取されることが多いのですが、どの流域から産出したか分かりやすいとされず。ともかく姫川のヒスイが青森に到達しています。

縄文人の好奇心の強さは現代人に負けません。人類ほどの動物より好奇心や未知へのあこがれが強く、それが文化

異質の交流が新たな文化を生む

を育みました。人類は「交流する種である」といえるほど、交通手段の乏しい時代から、広域に交流した痕跡を残しています。未知への好奇心、未知との接触が、より高い文化へ押し上げたのです。

日本書紀や古事記には、長い神様の時代が記述されています。「国生み」「天の岩戸」「八岐大蛇」「海幸彦・山幸彦」などの神話・説話は、インドネシア・インドシナ・インド・中国北部・南部などに分布する説話と類似性が高いといわれます。日本神話全体は、流布していた説話の一つに統合したようですが、日本

が多くの交流の中で成立したことを示します。広大な地域

交流が、この国を造った、と分かります。

今は国内外の交流が活発化し、地域の連携や役割分担が強まっています。わが国は、優秀な製造業が造る製品を世界に購入してもらい、世界各地から石油などの原材料を輸入し、食料を買います。製造業は各地の中小企業や下請けから部品を集め、組立工場で

完成品にします。交流が付加価値を生むことは、今も古代も変わりません。

情報の発達は、国や地域の相互依存をさらに高めます。研究開発・文学や映像作品・食文化や食習慣(すしの世界化)・服飾など、グローバルスタンダードではありませんが、一つの世界に収斂(しゅ

うれん)していく感があります。肝心なのは「異質と異質がぶつかって新たな文化を生んだ」ことで、地域性へのこだわりは、絶対に捨てられないことです。異質を保つことで、交流からの新たな飛躍が生まれる、ということなのです。この国は古代の広域交流の力オスから生まれました。近代交通の時代も、それにふさわしい地域文化が交流の力オスから生まれる、と信じています。

ます。「国生み」「天の岩戸」

から部品を集め、組立工場で

生まれ、と信じています。